

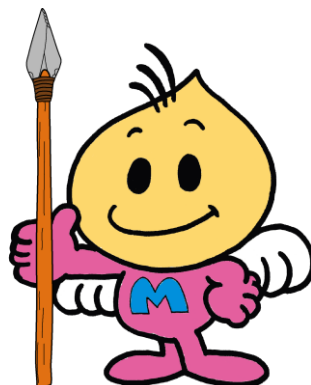
「みよし文化財だより」は文化財保護課（歴史民俗資料館）が作成する不定期刊行物です

こくようせき 黒曜石の石器が見つかった！ Part. 1

今をさかのぼること約3万5千年前～約1万6千年前の^{きゅうせつき}旧石器時代。人々は石を加工して^{やり}石器を作り、槍の先などに付けて獲物をつかまえて暮らしていました。石器は^{やり}槍のほかにも、つかまえた獲物を解体したり、皮や木に穴をあけたり、^ほ彫ったりと様々な場面で使われていました。旧石器時代の人々にとって、石器は生きていくために欠かせない道具だったのです。

そんな石器にはどんな種類の石が使われていたのでしょうか？叩いて割ればどんなものでも良い、というわけではありません。実は当時の人々は、割った時に鋭い部分ができる、ひとつの石からたくさんの石器を作ることができる、加工しやすい種類の石をわざわざ選んで使っていたのです。

そうした石のひとつに、^{こくようせき}黒曜石があります。今回と次回の文化財だよりでは、三芳町の^{いせき}遺跡で見つかった^{こくようせき}黒曜石で作られた石器について、近年わかってきたことをお伝えします。



■ ^{きゅうせつき}旧石器時代ってどんな時代？

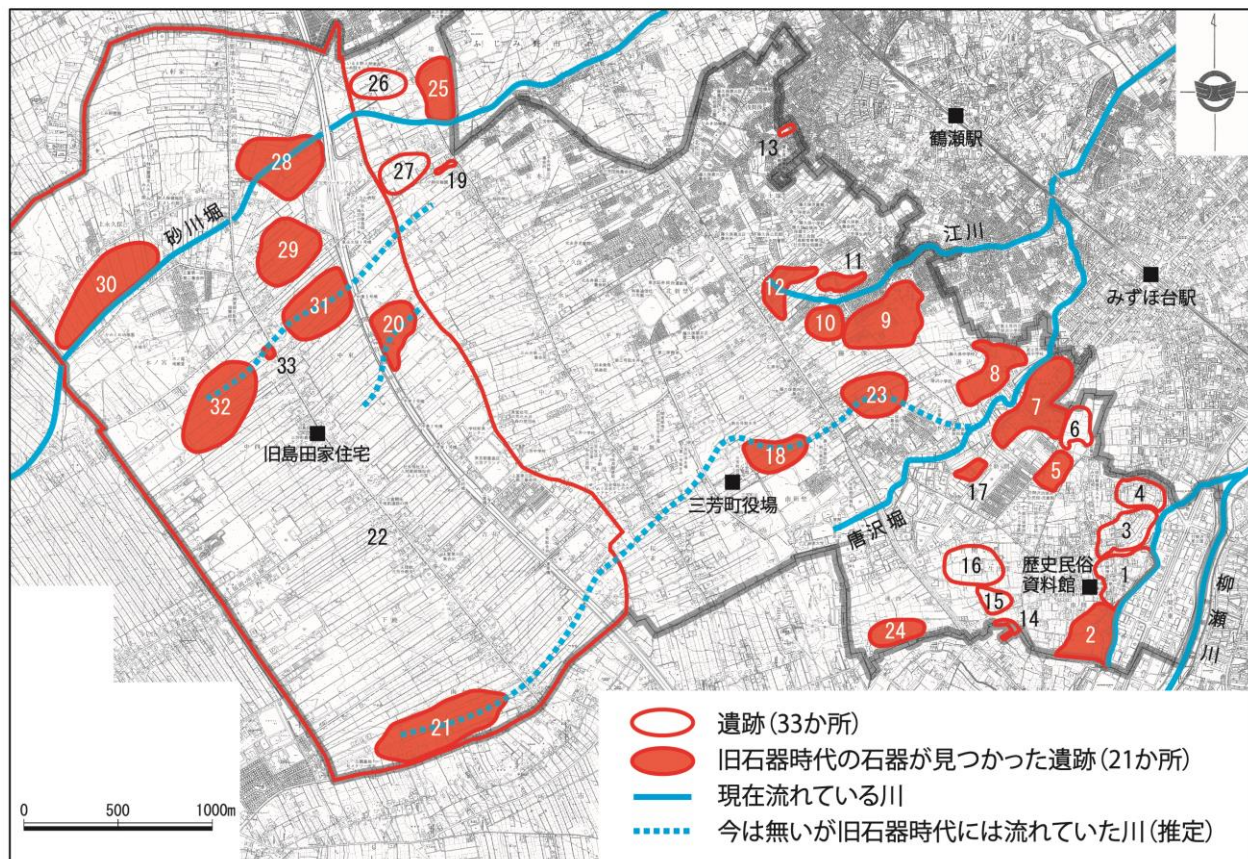
今から約3万5千年前～約1万6千年前の^{ひょうが}氷河時代。現在よりも平均気温で6、7度低く、とても寒い時代でした。かつて日本列島は大陸と陸続きで、その頃にナウマンゾウやオオツノジカ、マンモスなどが大陸から渡ってきており、日本にも生息していました。



旧石器時代の様子（イメージ図）

■ 三芳町に旧石器時代の遺跡はあるの？

三芳町には現在 33 か所の遺跡が確認されていますが、そのうち、旧石器時代の石器が見つかった遺跡は **21 か所** あります。実は、埼玉県内で最も古い約 3 万 5 千年前の石器のひとつも三芳町で見つかっています（下図 12 番の藤久保東遺跡）。



■ 黒曜石ってどんな石？

火山のマグマが地表付近で急激に冷やされてできる種類の石です。外見は灰色ですが、割ってみると中は**黒色**で、ガラス質のため割れ口が非常に**鋭く**なります。その切れ味や加工の簡単さなどから、石器にはもってこいの石として重宝されていました。

しかし、黒曜石はどこでも手に入る石ではありません。関東では右図の★印でしか入手できません。そんな黒曜石で作られた石器が三芳町の遺跡からたくさん見つかっています。次号ではその様子を詳しくお伝えします。（文：大久保）

